

## 移動観覧席の利用実態（催し物）に関する研究

—全国の公立文化ホールを対象としたアンケート調査による—

建築計画—施設計画

準会員 ○ 小原あかり<sup>\*1</sup> 正会員 千葉絵里子<sup>\*2</sup>  
正会員 堺 皓亮<sup>\*2</sup> // 勝又 英明<sup>\*3</sup>

公立文化ホール 移動観覧席 プロセニウム形式  
椅子使用 平床使用 避難所

### 1. 研究目的

移動観覧席は、1つのホールで椅子使用と平床使用が可能になるため、設置することにより多目的な活用が可能になる。例えば椅子使用の場合には講演会やコンサート、演劇などの利用ができ、平床使用の場合にはスポーツや展示、練習室等の利用ができる。

本研究では、公立文化ホールを対象として移動観覧席の利用実態の現状の把握と分析を行い、特に催し物に着目することで明らかにすることを目的とする。

### 2. 研究方法

#### 2.1 研究対象

本研究の研究対象は、全国の公立文化ホールの中で、移動観覧席を持つ平床のホール 950 ホールである。納入年月は 1983 年 3 月から 2015 年 3 月までの施設である。学校、宗教施設、民間施設は対象としていない。

#### 2.2 調査方法

アンケート調査は、各劇場のホール管理者に回答してもらった。調査項目は大きく、一般属性・計画時・現在・将来に分類され、移動観覧席の導入理由、意見や評価、今までに行われた催し物、長所短所などを聞いた(表 1)。アンケート調査の総数は 950 件、うち返送があったのは 605 件で、回答率 63.4%であった。なお、本調査での「平床使用」は移動観覧席を収納した状態、「椅子使用」は移動観覧席を設置した状態と定義する。

一般事項についてはデータベースから入手し、その他の事項の諸元については実施図面よりデータを入手した。調査項目は、舞台形式・総席数・移動観覧席数・納入年・移動観覧席の段数・中段使用の有無・建築床仕上げ・椅子タイプ・椅子間口である。

一般属性	名称、回答者、客席数、貸出し費用、床の仕様、パトンの配置、舞台の仕様
計画時	導入提案者、導入理由、導入反対意見の有無、反対理由、災害時における想定
現在	反対者の満足度、長所、苦情の有無、短所、製品満足度、費用対効果、椅子のグレード感、年間稼働率、椅子・平床状態における催し物、レセプションパーティーの有無、平常状態とその理由、モード変換、不具合
将来	移動観覧席に求めること
その他	移動観覧席についての意見

### 3. 催し物の傾向

アンケート調査において、椅子使用と平床使用で今までに行われた「全ての催し物」と、各ホール3つまで回答可能として「主な催し物」を聞いた。

椅子使用と平床使用において行われた催し物の傾向をみたところ、椅子使用では「講演会」、「ピアノや合唱などの「コンサート」、「映画」、「演劇」、能や落語などの「古典芸能」が多く、特に「講演会」、「コンサート」は約 90%のホールが行っていた(図 1, 2)。

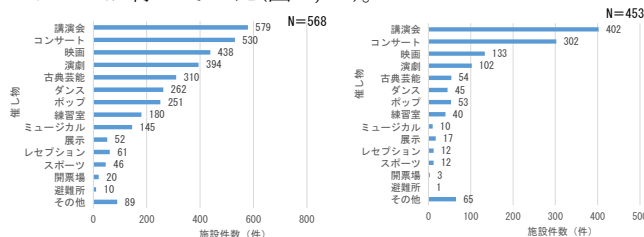


図 1 椅子使用での全ての催し物 図 2 椅子使用での主な催し物

平床使用では、「ダンスや演劇などの「練習室」、「展示」、「スポーツ」、「レセプションパーティー」が多く、どの催し物に関しても半数近くのホールが行ったことがあった(図 3, 4)。

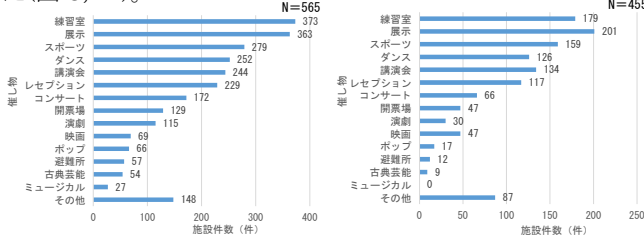


図 3 平床使用での全ての催し物 図 4 平床使用での主な催し物

「講演会」は椅子使用と平床使用で行われているが、ピアノや合唱などの「コンサート」、「演劇」、「映画」、「古典芸能」、「ポップ」は椅子使用で行われていることが多く、「展示」、「スポーツ」、ダンスや演劇などの「練習室」、「レセプションパーティー」、バレエなどの「ダンス」は平床使用で行われていることが多い結果となった。

椅子使用と平床使用では行われている催し物が異なり、

椅子使用・平床使用それぞれの特性を活かして催し物のすみ分けが行われており、幅広い催し物が行われていた。

#### 4. 諸元と催し物の関係

##### 4.1 席数と催し物

平床使用時において、総席数が少ないホールは「練習室」使用された件数が多く、総席数が多いホールは「展示」使用された件数が多かった。また「100 席以下」のホールでは「スポーツ」使用されたホールが少なく、「501 席以上」のホールでは「レセプションパーティー」使用されたホールが多くなっていった。移動観覧席数が増えるにつれ「練習室」使用された件数が減少し、「スポーツ」が行われた件数が増加していた(図 5~8)。

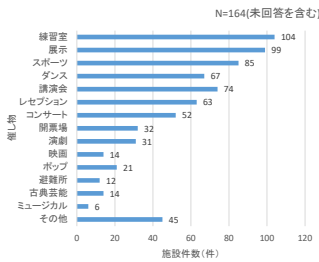


図 5 総席数 201-300 席における平床使用での全ての催し物

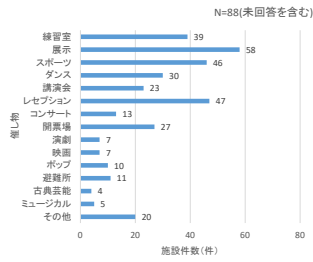


図 6 総席数 501 席以上における平床使用での全ての催し物

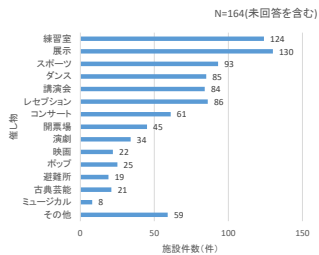


図 7 移動観覧席数 201-300 席における平床使用での全ての催し物

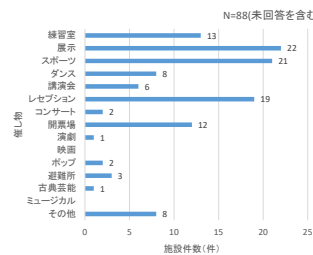


図 8 移動観覧席数 501 席以上における平床使用での全ての催し物

##### 4.2 バトン配置位置・舞台形式(固定・可動)と催し物

「バトンの配置位置」と「平床使用で行われた催し物(練習室、展示、スポーツ、レセプションパーティー)」の関係をみたところ、「スポーツ」が行われたホールはバトンの配置が「舞台のみ」という回答の割合が他の 3 つに比べて多くになっていた(図 9)。

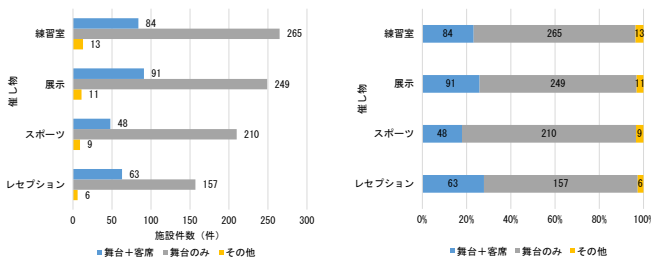


図 9 バトン配置位置と平床使用での全ての催し物の関係

また、「舞台形式(固定・可動)」と「平床使用で行われた催し物(練習室、展示、スポーツ、レセプションパーティー)」の関係をみたところ、「スポーツ」が行われ

たホールは舞台形式が「可動」という回答の割合が他の 3 つと比べて多くなっていた(図 10)。

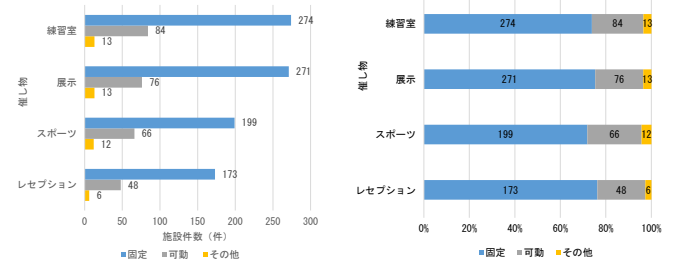


図 10 舞台形式と平床使用での全ての催し物の関係

「スポーツ」として利用する際には空間を広く利用するため、平床部分にはバトンが設置されていない施設が多く、可動舞台が多いのだと考えられる。

##### 4.3 建築床仕上げと催し物

平床使用時における建築床仕上げごとの上演された催し物の関係をみたところ、「フローリング」はどの催し物においても幅広く使われていた(図 11)。

一方で「フローリング」以外の「タイル」「シート」「カーペット」「塗床」を用いて行われた催し物では、行われた催し物が多い順に上から並んでいる全体の傾向と比べて催し物にばらつきがみられた。「タイル」「カーペット」「塗床」は「展示」が最も多く行なわれていた。「塗床」では、「レセプションパーティー」が行われた件数が多かった。「シート」「カーペット」「塗床」では、「スポーツ」と「ダンス」として使用されたホールが少なくなっていた(図 11)。

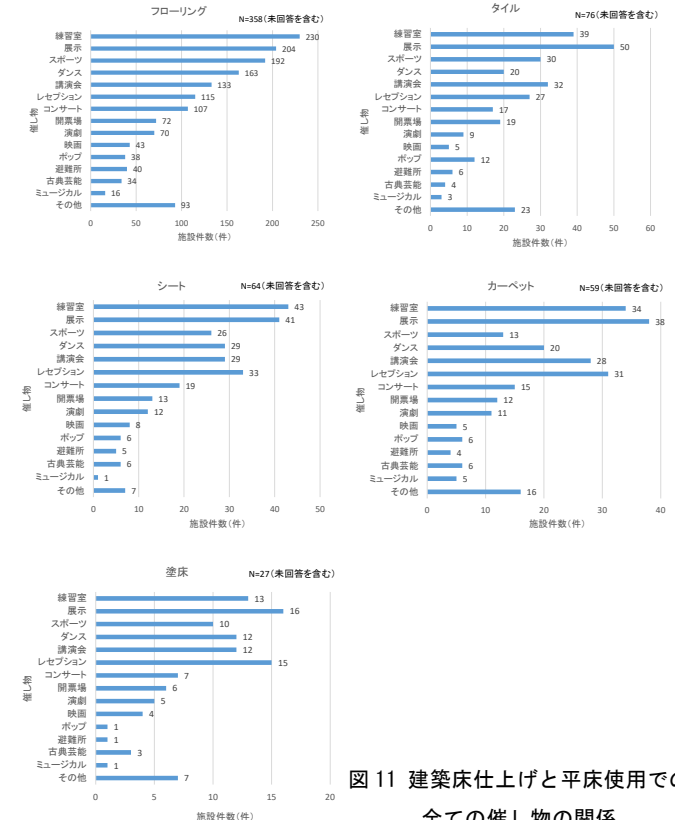


図 11 建築床仕上げと平床使用での全ての催し物の関係

## 5. 運営と催し物の関係

### 5.1 災害時想定・備品庫の設置と催し物

固定席のない平床は、災害時に避難所や救援物資の仕分け・倉庫として有効である。「災害時に避難所や備品の仕分け場として想定していたか」と「平床使用で行われた催し物の避難所の項目」の関係のみたところ、「避難所」として使用したことがある施設について、計画時に「災害時の利用を想定していた」ホールは、「想定していなかった」ホールの6倍（主な催し物でみると3倍）になっていた(図12)。また「備品庫の設置」と「平床使用で行われた全ての催し物と主な催し物の避難所の項目」の関係のみたところ、「避難所」として使用したことがあるホールにおいて、「備品庫を設置していない」ホールが「備品庫を設置している」ホールを上回った(図13)。

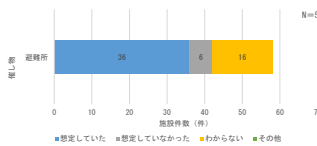


図12 平床使用において避難所として使用した事のある施設(全て)と災害時の想定の関係

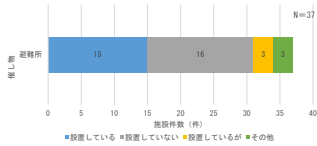


図13 平床使用において避難所として使用した事のある施設(全て)と備品庫の設置の関係

### 5.2 レセプションパーティーの許可と催し物

平床使用で可能な催し物として、レセプションパーティーがある。「レセプションパーティーの許可」と「平床使用で行われた催し物のレセプションパーティーの項目」の関係のみた。「レセプションパーティー」は約半数弱の施設が行ったことがあった。「レセプションパーティー」として使用したことがある施設において、「レセプションパーティーを許可している」ホールが大半であった。「条件付きで許可している」ホールを含めると、「レセプションパーティー」を行ったことがあるほとんどの施設が「レセプションパーティーを許可している」なかで行われていた。また、「レセプションパーティーを許可していない」が催し物として実際に行われた施設も1割ほどあった(図14)。

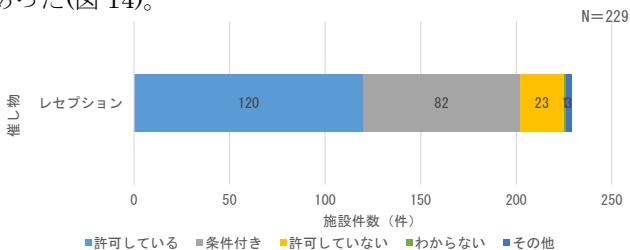


図14 レセプションパーティーの許可と平床使用での全ての催し物の関係

## 6. 長所・短所と催し物

移動観覧席であることの「長所」と「平床使用で行われた催し物(練習室、展示、スポーツ、レセプションパ

ーティー、避難所)」の関係のみた(図15)。全体の傾向として多く挙げられていた長所は「多様な催し物に使える」「平床にすることにより可能な催し物がある」であったが、これはどの催し物においても同様のことがいえる。またどの催し物においても「手並べ椅子に比べて楽に設営できる」よりも「多様な催し物に使える」が多数であったことから、催し物の幅が広がることのほうがより優先度が高いようであった。

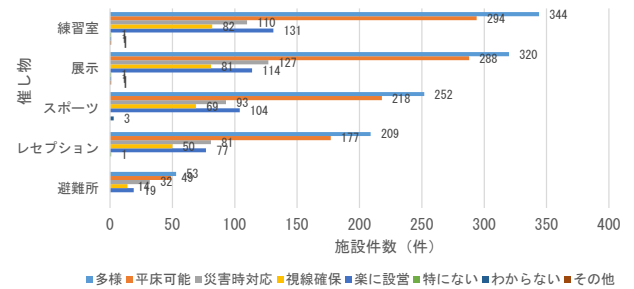


図15 長所と平床使用での全ての催し物の関係

一方、移動観覧席であることの「短所」と「椅子使用で行われた催し物(講演会、コンサート、映画、演劇)」の関係のみた(図16)。全体の傾向として最も挙げられていた短所は「コストがかかる」であった。これはどの催し物においても言えることであった。次いで短所として挙げられていたのは「客席が揺れる」「通路を歩くとさうるさい」であったが、「映画」が行われた施設において「通路を歩くとさうるさい」が「客席が揺れる」を上回った。

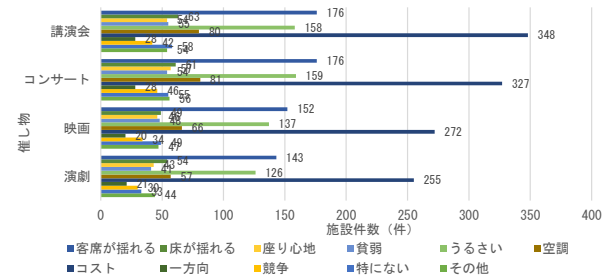


図16 短所と平床使用での全ての催し物の関係

## 7. 椅子使用の割合と催し物

「椅子使用の割合」が「0~20% (たまたに椅子使用)」と「81~100% (主に椅子使用)」の場合における、椅子使用での催し物の関係のみた(図17)。椅子使用の割合が「0~20% (たまたに椅子使用)」では行われた催し物が上位4つ(講演会・コンサート・映画・演劇)に集中しているが、「81~100% (主に椅子使用)」では行われた催し物が分散しており、椅子使用の割合が高い方がより幅広い催し物が行われていた。

また、椅子使用の割合が「0~20% (主に平床使用)」と「81~100% (たまたに平床使用)」の場合における平床使用での催し物の関係のみたところ、「0~20% (主に平床使用)」では「展示」として使用されたホールが少なくなり

「スポーツ」として使用されたホールが多くなっていた(図18)。平床使用の割合が高い(椅子使用の割合が低い)場合において、平床使用で行われた催し物は「練習室」「スポーツ」「展示」が多く行われていた。

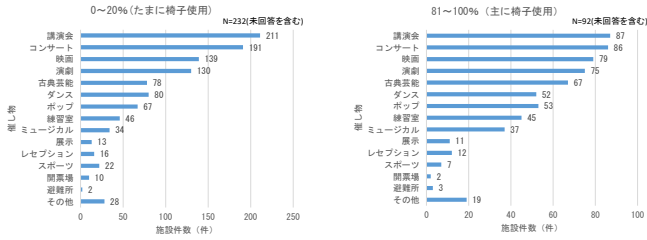


図17 椅子使用の割合と椅子使用における全ての催し物の関係

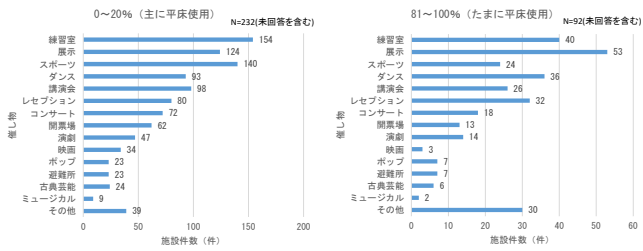


図18 椅子使用の割合と平床使用における全ての催し物の関係

## 8. 年間稼働率と催し物

「年間稼働率」が「0~20%」と「81~100%」の場合における椅子使用での催し物の関係をみると、年間稼働率が「0~20%」では行われた催し物が上位4つ(講演会・コンサート・映画・演劇)に集中しているが、「81~100%」では行われた催し物が分散していた(図19)。年間稼働率が高い方がより幅広い催し物が行われていた。また年間稼働率が高いとき、「映画」「古典芸能」として使用されたホールが、行われた催し物が多い順に上から並んでいる全体の傾向と比較すると少なくなっていた。

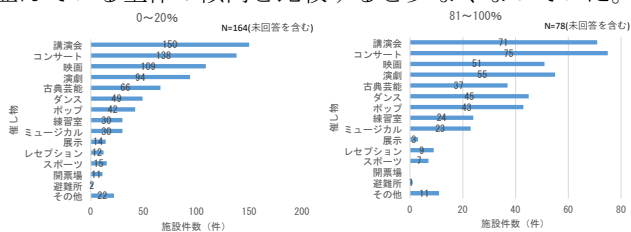


図19 年間稼働率と椅子使用における全ての催し物の関係

平床使用での催し物の関係をみると、年間稼働率が「81~100%」では「練習室」として使われたホールが突出して多くなっていた(図20)。年間稼働率が「0~20%」では「ダンス」として使用されたホールが少なくなっているが、「81~100%」では多くなっていた。年間稼働率が「0~20%」では「展示」が多くなっているが「81~100%」では少なくなっていた。

年間稼働率が高いとき、椅子使用において催し物が分散し、より幅広い催し物が行われていた。平床使用においては、「展示」が少なくなった一方で「練習室」「スポーツ」「ダンス」が多くなった。

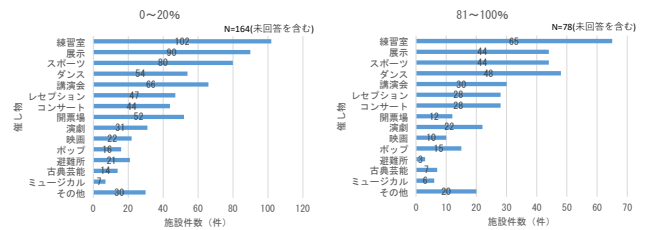


図20 年間稼働率と平床使用における全ての催し物の関係

## 9. まとめ

本研究では、移動観覧席の催し物に着目し利用実態について研究を行った。その結果、以下のことが明らかとなった。

- (1)椅子使用と平床使用では行われている催し物が異なり、椅子使用・平床使用それぞれの特性を活かして幅広い催し物が行われていた。
- (2)平床使用時、総席数が少ないホールは「練習室」使用が多く、「スポーツ」使用が少ない。総席数が多いホールは「展示」と「レセプションパーティー」使用が多い。
- (3)平床使用時、移動観覧席数が増えるにつれ「練習室」使用が減少し、「スポーツ」使用が増加した。
- (4)「スポーツ」使用されたホールは、平床部分にバトンが設置されていない施設が多く、可動舞台が多い。
- (5)幅広い催し物を行うホールの建築床仕上げは、「フローリング」が適している。
- (6)「避難所」使用されたホールは、計画時に災害時想定をしていた施設が多かったが、備品庫の設置まで行っているホールは少なかった。
- (7)どの催し物においても「長所」は「多様な催し物に使える」「平床にすることにより可能な催し物がある」であった。またどの催し物においても「短所」は、「コストがかかる」であった。
- (8)椅子使用時は「椅子使用の割合」が高い方がより幅広い催し物が行われており、平床使用時は「平床使用の割合」が高い場合「練習室」「スポーツ」「展示」が多く行われていた。
- (9)「年間稼働率」が高い場合、椅子使用時ではより幅広い催し物が行われていた。平床使用時では「展示」使用が少なく「練習室」「スポーツ」「ダンス」使用が多かった。

## 謝辞

調査にご協力いただきました、公立文化ホールおよびコトブキシーティング株式会社の皆様に厚く御礼申し上げます。なお本研究は東京都市大学勝又研究室 吉川文菜さんと共同研究です。

## 参考文献

- 1) 平成26年度 全国公立文化施設名簿
- 2) 堺皓亮、千葉絵里子、勝又英明：劇場・ホールの移動観覧席の諸元に関する研究—全国の公立文化ホールを対象として—、日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)、pp. 427-428、2016.08
- 3) 千葉絵里子、堺皓亮、勝又英明：劇場・ホールの移動観覧席の利用実態と活用に関する研究—移動観覧席が200席以上かつ総客席数が約400席以上の公立文化ホールを対象として—、日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)、pp. 429-430、2016.08
- 7) コトブキシーティング株式会社 ホームページ <http://www.kotobuki-seating.co.jp>

\*1 東京都市大学工学部建築学科

\*2 東京都市大学大学院 修士課程

\*3 東京都市大学工学部建築学科教授・博士(工学)